

ことばと共生

ーことば・人・社会の関係からー

神吉宇一(かみよしういち)
uichik1113@gmail.com

社会における教育の性質

	教育すること自体が目的と考える	教育を何かの手段と考える
社会のため	A) 福祉としての教育	B) 社会の形成・維持としての教育
個人のため	C) 消費としての教育	D) 私的投資としての教育

以下文献p.22 表1.1をもとに発表者作成
村上祐介・橋野晶寛(2020)『教育政策・行政の考え方』有斐閣ストウディア

公的責任・政策管理

政策軸

Ⅱ
社会福祉型
日本語教育

Ⅰ
成長社会型
日本語教育

Ⅲ
言語習得型
日本語教育

Ⅳ
市民教育型
日本語教育

私的領域

Copyright 2023 Uichi Kamiyoshi.

ことばと共生

ことば・人・社会のさまざまな関係性
それぞれの方向性が尊重される

教室活動そのものの
あり方
現在志向

教室活動を通じた
将来効果
未来志向

教育軸

日本語教育の
四象限俯瞰図

2023/05/20

公的責任・政策管理

政策軸

個人の経済的達成
社会発展
人的資本投資
卓越性への偏り

居場所・心地よさ
対等性
つながり・コミュニティ
社会関係資本
学習・習得への目配り

Ⅱ
社会福祉型
日本語教育

Ⅰ
成長社会型
日本語教育

教室活動そのものの
あり方
現在志向



教室活動を通じた
将来効果
未来志向

教育軸

Ⅲ
言語習得型
日本語教育

Ⅳ
市民教育型
日本語教育

趣味・教養
余暇
日本語
教育の意義

自律・自立
市民性・主体化
創造
関係者の理解

私的領域

ことばと共生を俯瞰的に考えること

- ことばがある人が生きていく際の**関心事項**にどう関係しているか
- 日本語教育がどんなアクターや取り組みと**手を組む**とよいか
- どの方向を取るにしても「**日本語によって思考・行為行動・対話する力**」が**育成される**ということは大前提
- 地域の日本語教育に関わる**専門家**→俯瞰的観点からの活動デザイン